

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070101189		
法人名	アタゴ学園株式会社		
事業所名	グループホームあたご		
所在地	長野市若宮1-9-2		
自己評価作成日	平成21年9月15日	評価結果市町村受理日	2/24

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2070101189&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A
訪問調査日	平成21年9月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅改修型のグループホームであり、自宅に居たときと同じ感覚を味わえる空間を大切にしている。定員も6名と少なく、職員と利用者さんがより近くなり、深く入ったケアが行えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体のアタゴ学園は、創業者が定年を迎えた方たちが老人大学のように学びの学園として開設。高齢となり介護が必要になっても交流し、安心した環境で生活してほしいという考えのもと、介護保険が始まる以前からの有料老人ホームが母体となっている。その精神を引き継ぎ、生活していくに当たり認知症が進んできた利用者が、安心してその人らしく生活するための家として開設された。安心して生活が出来るホームを目指し、管理者とホーム長の二人を中心に、この地域に根付き「地域と共にその人らしい尊厳を守る」という理念を掲げた。管理者、ホーム長は、利用者との生活、ホームのあり方を見つめなおしている。介護計画に沿ったサービス、終末期のあり方など今後の課題も大きいですが、職員の働きやすい環境であるという笑顔に今後のホームの向上を期待していきたい。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>地域密着型サービスの意義を確認し、地域の支援と関係性を重視した理念を大切にしている。</p>	<p>地域密着型サービスの意義を理解し、今年度は、グループホームあたごの目指すべき3つの理念「その人らしく、公平で尊厳を守る」「ゆるやかに生活できるようサポートする」「地域社会の中で人と人とのふれあいを大切にする」ができ、職員の働く心構えになっている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>日常的に散歩に出掛け、公園にいらっしゃる方々へお話ししたりしている。</p>	<p>地域とのつながりは大切と考えている。現在、近くの公園に散歩に出かけ、公園にいる地域の方と話をしている。地域から「あたご」のグループホームがまだ認識されていない面もあり、区長さんなどが毎年代わることなどからも、なかなか地域の一員となっていない様子である。</p>	<p>運営推進会議を定期的で開催し、地域からの出席もお願いし、あたごのグループホームを地域の皆さんに理解していただくことも大切である。地域包括や市町村との相談など行い、地域の一員として協力支援を受けられる関係構築を期待したい。</p>
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>運営推進会議を開催しているが、回覧板などの交流もなく、どのように地域と関わっていくかを模索している最中である。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議で出た議題などを職員会議にて話し合い、次回の運営推進会議に反映させている。</p>	<p>昨年は、外部評価後、2ヶ月ごとに行っていたが、今年度は開催されていない。</p>	<p>運営推進会議は、地域の理解と支援を得るための貴重な機会であることを認識し、ホームへの理解、交流、防災などの協力支援の良い場であり、ホームが抱えている悩みなどの率直な意見交換の場として捉え、サービス向上のため具体的に活かしていくことを期待したい。</p>
5	(4)	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議の参加の依頼をしている。</p>	<p>あんしん相談員は定期的に見えている。</p>	<p>市町村は地域福祉の推進役としての最前線にあり、ホームが抱えている疑問、課題について相談、協力など一緒に考えていく関係作り、良き相談窓口と考え、課題解決の糸口になってほしい。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会の開催をして、職員の共通意識を図っている。	身体拘束をしないケアの意義は、管理者・職員は十分理解している。門扉は鍵が掛けられているが、門の外は車道であり、帰宅願望のある利用者は出て行かれる。また、別の利用者は入居当時、自分の家に帰りたいと一緒に職員が自宅まで出かけ納得し、現在は、勤めに来ているつもりで落ち着いた方もいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社全体として勉強会を開催している。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム長が対応しているため、全職員は理解していない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明している。特に、何処にいても起こりうるリスク・重度化してからの退去については細かく説明している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月一回ご家族に向けて担当者よりその月のご様子を記載した手紙を送付している。	毎月定期的に、家族に利用者の様子を記載した手紙を送っている。今後は利用者の生活ぶりを写した写真も同封し、利用者の様子をお知らせし、意見、要望の機会にしたいと考えている。利用者の意見の表だしもホーム長以外に管理者を設けたことで気軽に意見を述べられる環境作りに努めている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回の全体会議を行い、意見を聞いたりしている。	ホーム長や管理者には、意見の言いやすい体制にある。毎月1回は全体会議があり職員の意見や提案を聞く機会がある。今後、個別に職員面談を行い、職員の声に耳を傾け、双方が協力し合える関係を深めていきたいと言う。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>ホーム長自身が勤務に入り、職員の話も直接聞いているが、じっくり話をする所までは至っていない。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所外で開催される研修にはなるべく多くの参加をしてもらえるようにしている。その後、全体会議の中で発表してもらっている。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>善光寺平グループホームねっとに所属していて、同業者との交流の機会も作っている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族 本人 ご家族・本人の順で綿密な話し合いをその都度行っている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族・本人が求めているものを理解し、どのような対応ができるかを話し合っている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>早急な対応が必要な時には、その都度柔軟な対応を行い、信頼関係を築いている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんは人生の大先輩だという事を職員が共有しており、利用者から教を請う事が多々ある。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員の想いなどを伝えることで家族と職員の思いが徐々に重なり、本人を支えていくための協力関係が築ける事が多くなっている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現状では実現していない。	利用者が昔住んでいた近くのお寺に行きたいときは出かけ、気持ち安らぐ工夫もしている。利用者それぞれの思い出の場所や馴染みの食べ物などがあれば、食べに行くなど利用者の大切にしてきた場所や物を大切にしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々に話を聞いたり、相談に乗ったり、皆さんと和気あいあいしながら、話しをする機会を設けている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	各行事に参加したり、ご家族からの相談の電話などの対応をしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の表情の変化にも十分配慮し、時には1対1の会話を持てるように行っている。	毎日の暮らしぶりの中で利用者の希望、意向の把握に努め、声かけ、会話の中で困難なことも話しあい検討している。	アセスメント票などの利用で、生活暦を利用時に、または日常の中で把握する。職員全員が一人ひとりの暮らしの希望や思いに関心をはらい、困難なときは家族からの情報などから生活を支えるためのアセスメントを行うことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の綿密な話し合いの中で得た情報をプライバシーを損ねることなく、職員に周知している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・昼・夕とその時々の状態を把握し、その時に合ったアプローチを心掛けている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意見を取り入れることをしてなく、職員の主観で計画を立ててしまっている。	本人がより良く生活するため、職員は利用者について考えているが、本人、家族の希望を取り入れた計画の作成にはなっており、モニタリングの観点からも毎月1回全体会議で状況報告にとどまっている。	利用者・家族を含めた介護計画の作成がなされることで、家族の意見の反映の場ともなり、家族との信頼関係のより良い構築になる。また、月々行っている定例会議は、目標に対するモニタリングの場になることを期待したい。介護支援専門員の養成も考えており、今後のチームで作る介護計画になることを期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルにて食事・排泄・身体的状況及び日々の暮らしの中で得た情報をその都度記録している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じて、通院や送迎等必要な場合には柔軟な対応をし、個々の満足度を高める努力をしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて民生委員・地域包括支援センターの参加を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>契約時にかかりつけの病院や医師があればと必ず聞いて、必要に応じて対応している。</p>	<p>主治医は、入所時に家人と相談して決めている。ほとんどの人がホームの協力病院に変更になることが多い。通院介護も基本的にはホームが行い、説明を受けている。</p>	<p>家族負担を考え、ホームの職員が通院を行っているが、家族が通院に対し不安な気持ちにならないように、入所時の家族役割の理解も含め、本人、家族の納得が出来る受診結果の情報共有が図れるように希望する。</p>
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職員を配置しており、健康状態や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。</p>	/	
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には、本人のサマリーを病院へすぐさま提供し、担当医師・看護師に情報を提供できるような体制を整えている。</p>	/	
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人・家族の意思を踏まえ、医師・職員が連携を取り、安心して納得した最期を迎えられるように取り組んでいる。</p>	<p>現在の体制での終末期対応は、難しいと考えている。しかし、家族の希望により終末期を看取ることになり、行ったが、他利用者への配慮、利用者の意思確認しながらの介護に難しさを感じたが、良い経験となった。</p>	<p>今後、終末期を看取ることもあると思われるが、家族の揺れ動く気持ちを理解し、本人、家族の安心が得られるように主治医との連携により、ホームが対応しうる最大の支援方法をホーム全体で話し合っていくことが必要と思われる。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>全ての職員が年1度の心肺蘇生法の講習を受け、習得するようにしている。</p>	/	
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>会社にて、避難訓練・避難経路の確認、消火器の使い方などを年1回行っている。</p>	<p>避難経路の確認のみが行われている。ホームでの避難訓練、消火訓練は行われていない。また、備蓄は水のみであり、今後備蓄の検討はしていく予定である。</p>	<p>夜間は特に一名の勤務であり、地域住民の協力支援をお願いし、至急避難訓練や、避難場所、緊急時連絡網の整備をしていくことを期待したい。運営推進会議の開催の中で地域協力体制、消防署なども参加していただくことで安全な対策を取れるようにお願いしたい。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	まずは本人の気持ちを大切に考えて、さりげないケアを心掛け、自己決定しやすいよう工夫をしている。	個人情報の取り組みは全員で行っている。申し送りのときや本人のプライドを傷つけるような声かけに対してはその都度、話し合いを行っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決めた事を押しつけるような事はせず、複数の選択肢を提案し、個々に答えやすくするようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせた対応を心掛けている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこだわりを尊重し、職員側からの押し付けにならない様に心掛けている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	庭で栽培している野菜と一緒に採ってきて、できる限り一緒に食事をつくり、一緒に食べている。	玄関わきに畑を作り、季節の野菜を四季折々に利用者と共に採ってきたり、草取りなどしている。利用者が出来るテーブル拭きや料理の下ごしらえなど出来ることは行っている。テーブルを囲み笑顔で家族的な食事風景が見られた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・形態など個々に把握している。嗜好品や食べやすい物を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	2週間に1度、歯科衛生士のオーラルケアを行っている。毎食後に口腔ケアを促している。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを送り表に反映させて、次の勤務体制の職員にスムーズに伝達できるようにしている。	リハビリパンツ利用者は3名であるがパットがうまく当てられない人には、さりげなく気分を損ねないように声かけし確認している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し、便秘気味の方には運動や水分補給を促し、場合によっては医師の指示により処方を行う。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	順番を検討して、雰囲気を変えたり行っている。入浴を強く拒否する利用者さんには強く勧めない。	入浴は、週2回となっているが、病状によっては週1回の人もある。入浴が負担になる方への対応や無理強いせず、タイミングを見ながら入浴を行っている。また、失禁のあるときなどはその都度に入浴している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。また、一人ひとりの睡眠時間を把握し、状況に応じて昼寝を促す事もある。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬は100%事業所側で管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で個々の能力を発揮できるように、お願いできそうな事は依頼している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に1度は外出などの行事を実施している。	散歩は天気の良いときは出かけている。家の中ばかりでなく季節感を感じてもらうために屋外に出ている。また、月1回は車で出かける外出支援をしている。外出支援の手伝いとして、地域ボランティアも今後考えてみたい。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	決まった利用者さんにだけ、金銭を持っていて頂き、散歩のついでに買い物をしたりしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月のお手紙に本人直筆の手紙なども稀にお願いしている。電話は利用者さんからの依頼がない限り、声掛けは実施していない。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室への持ち込みは自由となっている。家庭的な雰囲気損なわないようにしている。	既存の民家を利用しているため、落ち着いた雰囲気は基本にある。季節感を感じるように、食堂の壁に秋らしい色着いた木の折り紙、焚き火の折り紙がほんわりした気持ちを与えてくれる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	デッキでの日向ぼっこや、玄関前にて夕涼みなどできる雰囲気作りを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	温かい雰囲気作りをメインとし、建物の傷などが無い限り部屋の雰囲気を大切にしている。	障子と唐紙が既に自分の家らしい居心地よさをもし出している。排尿など、どこにでもしてしまう人もいるため、「トイレ」と紙が張られている部屋もあるが、その人に合った居室の工夫がなされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体状況に合わせた高低差を考慮して、その都度変更を行っている。		